

現代日本の住まいと暮らし — 「あこがれ」と現実のはざままで

2021年 **11**月 **24**日(水) 13:30～17:00

建築会館 ホール (東京都港区芝 5-26-20) および オンライン (Zoom)

趣旨説明

後藤治 (工学院大学 教授)

講演

【第1部】

小泉雅生 (東京都立大学 教授 / 小泉アトリエ) 「アシタノイエ」

伏見 唯 (株式会社伏見編集室 代表取締役) 「住人の住居史」

【第2部】

桐浴邦夫 (京都建築専門学校 副校長) 「侘数寄の茶室は
“あこがれ” から始まった」

豊田啓介 (noiz/gluon/
東京大学生産技術研究所特任教授) 「高次元に拡張する『くらし』」

討論

司 会 後藤治

パネリスト 小泉雅生、伏見 唯

桐浴邦夫、豊田啓介

企画 住総研「あこがれの住まいと暮らし」研究委員会

主催 一般財団法人 住総研

登壇者、講演テーマは変更になる場合がございます。

参加方法 会場およびオンライン (Zoom)

定 員 会場参加 60名 / オンライン参加 100名

参加費 会場参加：無料 オンライン参加：無料

※会場では募金へのご協力をお願いします。募金は支援金として被災地等にお送りします。

申し込み・詳細 <http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusoken.html>

問合せ

一般財団法人 住総研

e-mail sympo@jusoken.or.jp

TEL 03-3275-3078 / FAX 03-3275-3079

東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルディング 2階

第 1 回のシンポジウムでは住まいや暮らしにおける、過去と現在のさまざまな「あこがれ」を抽出し、それがどのようにして「流行」となったのか、現在にどう生かされているかを探った。それを受け第 2 回は、社会的な提案を持ってつくられている嗜好性の高い「住まい」と「暮らし」に注目し、それがどうすれば「あこがれ」の住まいと暮らしになるのかを考える。

第一部では、社会的提案を持ってつくられているが、大衆の「あこがれ」にはなっていない過去の事例（建築家の作品）と現代の事例（環境共生住宅や ZEH など）をとりあげ、同時に、提案側（建築家）の視点と住まい手側（社会）の視点の双方から、「あこがれ」への展開を考える。

第二部では、嗜好性の高いものから流行へと変化した事例として、日本における茶室をとりあげる。また、嗜好性の高いものが実現する過程を「仮想現実～現実」という社会現象のなかから見直す。その上で、嗜好性の高いものが大衆化していくためのブレイクスルーの要因や背景を再考する。

パネルディスカッションでは、将来の「あこがれ」の暮らしの住まい像について、アフター・コロナの住まいや暮らしの実像とともに議論したい。



後藤 治



小泉 雅生



伏見 唯



桐浴 邦夫



豊田 啓介 (敬称略)

■ 申込方法

ホームページの申し込みフォームにご記入の上、お申し込みください。

住総研 HP (<http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusoken.html>)

※会場での参加をご希望の方は、当日は必ずマスクを着用してご来場下さい。

※会場にお越しの際は、検温並びにアルコール消毒へのご協力をお願い致します。

※体調のすぐれない方、海外から帰国後 14 日経過しない方の参加はご遠慮下さい。

※オンラインでの参加の方は、録音・録画・撮影（スクリーンショット）はご遠慮下さい。

■ 申込締切日

11月17日（水）まで

■ お問い合わせ

一般財団法人 住総研

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルディング 2 階

E-mail sympo@jusoken.or.jp

TEL 03-3275-3078 / FAX 03-3275-3079

■ 会場：建築会館



JR 田町駅
三田口徒歩 3 分
都営地下鉄三田駅
A3 出口徒歩 3 分

第 1 回シンポジウム概要（2021 年 7 月 30 日開催）

「あこがれ」から「流行」へ。さらに次の段階へ・・・。第 1 回は歴史を含めて見た過去と現在のさまざまな「あこがれ」の住まいと暮らしを抽出し、その「流行」や「様式（スタイル）」形成のメカニズムにも触れながら、将来の住まいや暮らしの在り方にどう生かせるのかを議論した。

第一部では、「和室」が、祖型が中世（室町時代）に出来上がり、様々な流行の結果、住宅の部屋として、各地に多数普及した普及過程を例に、「住まい」における「あこがれ」の形成と「流行」を考察した。次に海外の「あこがれ」の具体化の類例として、インド・ムンバイのアールドコ様式の事例を紹介した。

第 2 部では、現代の「あこがれ」の住まい像を、高度成長期からの意識の変化や国際比較アンケート等によって確認し、直近の日本人の「住まい」の具体像が希薄になっていることやその要因、日本における現代の住まいと暮らしの特徴を考えた。

パネルディスカッションでは、「住まい」像が希薄化していることを前提に、今後の「あこがれ」の住まいや暮らしの形はどうかを議論した。